

# カサゴ親魚養成技術開発研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成16～18年度)  
担当：水産試験場利用普及部

## 【研究の背景とねらい】

- ・カサゴは沿岸域の付加価値の高い水産資源です。
- ・釣りや刺し網といった比較的簡便な漁具で漁獲されるため、漁業協同組合等から種苗放流の要望が多数あります。
- ・マダイやヒラメとは種苗生産時期が異なり、裏作としての対象魚種に最適です。
- ・親魚を天然魚に依存しており、安定的に元気な仔魚を得ることが困難です。
- ・そこで、安定した種苗生産をするために制限要因となっている親魚の質や養成方法について検討しました。
- ・親魚の養成結果を評価するため、仔魚の質の評価基準の検討を行いました。
- ・清浄な深層水を飼育水に用い、飼料種類を検討することにより、親魚にとっての良好な飼育条件を把握しました。

## 【研究成果】

- ・表層水及び深層水(397m)を飼育水に用い屋内水槽で配合飼料により養成した親魚から仔魚を得ることができました。
- ・親魚個別の産仔状況の把握により、産仔回次により、仔魚の活力に差があることがわかりました。
- ・仔魚の活力は体成分の脂質含量によるところが大きく、餌に脂質を添加することで活力が向上・安定しました。
- ・親魚を1年以上養成することにより産仔機能が向上することがわかりました。
- ・水温により、産仔をコントロール(抑制)することができました。

安定的に元気な仔魚を得ることが困難



カサゴ

↓  
親魚の飼育条件の検討  
親魚飼料の質についての検討  
仔魚の質を評価する方法の検討

親魚の適正な飼育技術確立

安定した種苗の供給

## 【研究成果の普及方法】

カサゴ種苗の安定生産では、要である親魚に管理体制の行き届いた屋内養成親魚を用いることで生産初期の減耗等いくつかのハードルをクリアすることができると考えられます。今後、この成果を種苗生産機関に移管し、放流及び養殖種苗の安定供給が図られるように努めます。

(作成 平成19年3月)